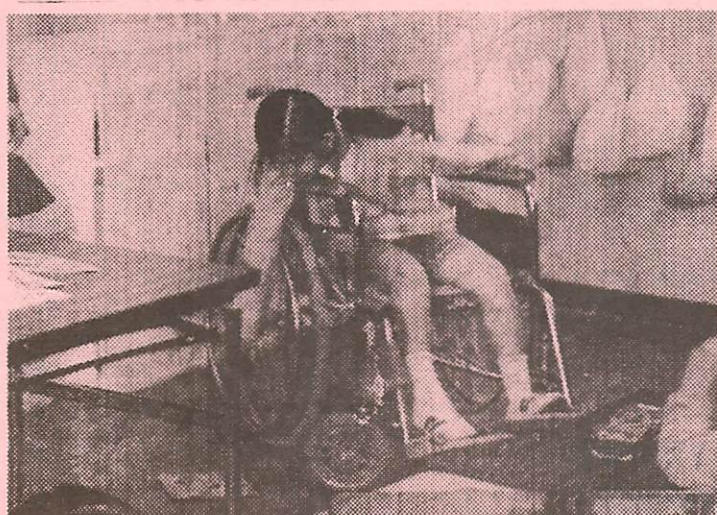


(小学校 道徳)

思いやりの心と道徳的実践力を育てる道徳学習の工夫

—— 総合単元的な道徳学習を通して ——



浦添市立浦添小学校

平良 美智江



目次

I	テーマ設定理由	1
II	目指す子ども像	2
III	研究の目標	2
IV	研究仮説	2
1	基本仮説	2
2	作業仮説	2
V	研究構想図	2
VI	研究内容	3~8
1	「思いやりの心」の育成	3~5
2	総合単元的な道德学習	5~6
3	道德の時間の指導法の工夫	6
4	資料の選択・分析	7~8
VII	授業実践	8~17
1	総合主題名	8
2	この総合単元的な道德学習の意図	8
3	総合単元的な道德学習の構想図	9
4	実践授業の記録	10
5	検証授業	11~12
6	資料分析と発問構成	12~13
7	本時の授業	13~15
8	授業仮説の考察	16~17
VIII	研究の考察	17~21
1	作業仮説(1)の検証	17~19
2	作業仮説(2)の検証	19~21
IX	成果と課題	21
1	成果	21
2	課題	21
	おわりに	21
	主な参考・引用文献	22



思いやりの心と道徳的実践力を育てる道徳学習の工夫

—— 総合単元的な道徳学習を通して ——

浦添市立浦添小学校 平良 美智江

【要約】

本研究では、総合単元的な道徳学習を通して、思いやりの心と道徳的実践力を育てる道徳学習の工夫を目指し授業実践を試みたものである。各教科・特別活動等の学習と道徳の時間を結びつけた総合単元を構成し、さらに、子どもの実態に合わせた資料の選択や資料分析・指導過程の工夫をすることで価値の内面化が図られ児童の思いやりの心が深まり実践力へと結びつくことができた。

キーワード □思いやりの心 □総合単元的な道徳学習 □道徳的実践力

I テーマ設定理由

情報化、価値観の多様化、少子化、核家族化等の様々な事象が変化した社会は、子ども達の生活や道徳的価値観にも大きな影響を与えている。また、家族や地域の教育力の低下や社会全体のモラルの低下、子ども達の社会体験や自然体験の乏しさも挙げられている。このような現状の中で、子ども達に大事な事は、生命を尊重する心、他人への思いやりや社会性、倫理観や正義感、美しいものや自然に感動する心などの豊かな人間性の育成であると考えられる。

平成20年1月の中央教育審議会答申の、道徳教育の改善・充実のための基本方針の中に「道徳教育は、その課題をふまえて小・中・高等学校の道徳教育を通じ、人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念を培い、自立し、健全な自尊感情を持ち、主体的自律的に生きると共に、他者と関わり、社会の一員としてその発展に貢献することができる力を育成するために、その基盤となる道徳性を養う事を重視する」と示している。

つまり、道徳教育とは、人間が本来持っているよりよく生きたいという願いや、よりよい生き方を志向し実践する人間の育成を目指し、その基盤となる道徳性を養う教育活動である。

また、道徳の時間は、各教科・特別活動等で行わ

れる道徳教育と密接に関連し、補充・深化・統合し、道徳的価値の自覚や自己の生き方を深め道徳的実践力を養う重要な時間である。

ところが、これまでの道徳学習は、私自身を振り返ると指導計画通りの授業をこなすことで精一杯であり、子ども達の道徳的実践力まで結びつかなかったように思われる。授業を通して、価値について理解しているようだが、子ども達自身は自分の問題として捉えることが十分ではなかったと思われる。

子ども達のアンケートの中で「思いやりとはどんなことだと思いますか」の問いに「実際に行動を起こすような事」（声をかける・助ける・優しくする）と答えた子は56%で「相手の立場になって考える事」と答えた子は27%「分からない」と答えた子は17%であった。

そこで、子ども達の実態に即した資料の選択や資料分析、授業展開の工夫を通して、体験活動等を生かした指導方法を工夫するとともに、子ども達の意識が持続できるように総合単元的な道徳学習を取り入れて価値の内面化を図りたい。

このことにより、子ども達が主体的に課題に取り組み道徳的実践力が育つのではないかと考え、本テーマを設定した。

II 目指す子ども像

- ・相手に対する思いやりや親切な心を持ち、実践しようとする子
- ・自分を大切にできる子

III 研究の目標

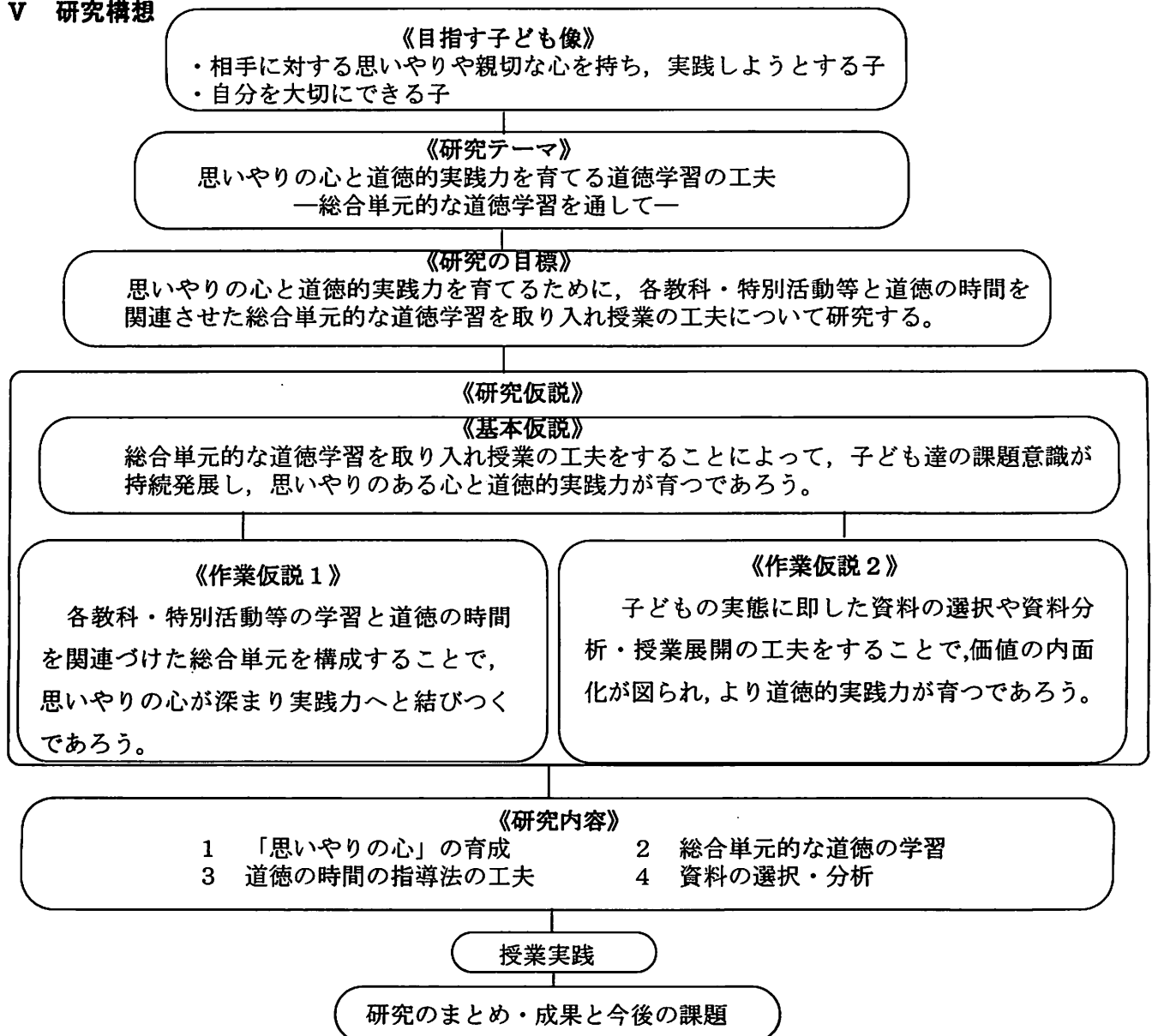
思いやりの心と道徳的实践力を育てるために、各教科・特別活動等と道徳の時間を関連させた総合単元的な道徳学習を取り入れ授業の工夫について研究する。

IV 研究仮説

1 基本仮説

総合単元的な道徳学習を取り入れ授業の工夫をす

V 研究構想



ることによって子ども達の課題意識が持続発展し、思いやりのある心と道徳的实践力が育つであろう。

2 作業仮説

(1) 各教科・特別活動等の学習と道徳の時間を関連づけた総合単元を構成することで課題意識が持続し、思いやりの心が深まり実践力へと結びつくであろう。

(2) 子どもの実態に即した資料の選択や資料分析・授業展開の工夫をすることで価値の内面化が図られ、より道徳的实践力が育つであろう。

VI 研究内容

1 「思いやりの心」の育成

(1) 思いやりの心とは

道徳の指導内容の項目 2-(2) は、「思いやり・親切」である。ここでは、テーマとの関連から「思いやり」について焦点をあてて考えていきたい。

思いやりとは、他人の喜び・悲しみ・痛み立場などの状況をつかみとり、共感し、自分の身になって相手の事を考えようとする気持ちである。

この視点で「思いやり」を考えると、

- ① 相手の事を考える。
 - ② 相手の立場になって考える。
 - ③ 相手の役に立っていないかと考える。
- 等と捉えることができる。

また、子ども達の捉えた「思いやりとは」のアンケートの結果は、図1のようになった。

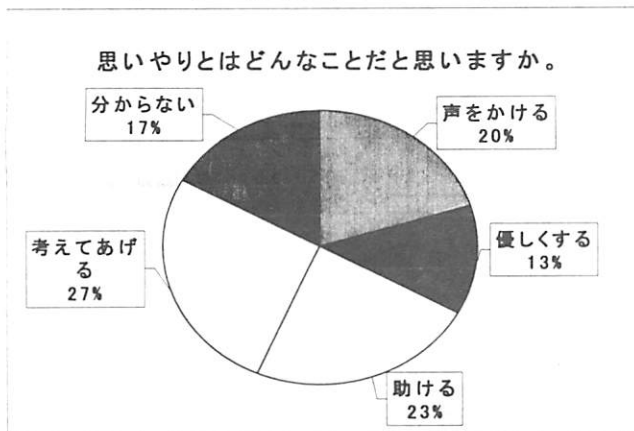


図1 思いやりとはどんなことですか。

「声をかける」「優しくする」「助ける」「考えてあげる」と相手の事を考えた回答がでてきた。しかし、実際には、生活実態や体験が違うので相手の状況や立場をつかみとるのは、困難なことも見受けられる。

そこで、思いやりの心を育てるには、押谷夫由氏は、下記のように言っている。

- ①あらゆるものに対する興味・関心・知的好奇心を育てる。
- ②認知的な判断力や想像力を高める。
- ③同情や共感を基盤として、自他を差別しない

で、相手を受容しようとする心情を高める。

これらのことを考えながら、本研究の道徳学習をすすめていきたい。

その中で、思いやりの心を持つためには、他者理解が重要となるが、それと同時に自己理解も必要となる。自分のことを考えられるこの時期に、自分自身を見つめる学習も取り入れることで、他者理解も自分と同様に考えられ共感的に思え他者をかけがえのない存在として思える。

そこで、子ども達が自分自身についてどのように考えているかを下記のようなアンケートを行った。

- A → 自分のことがすきですか。
 B → 自分はいいところがたくさんあると思いますか。
 C → 自分は周りの人から必要とされていると思いますか。
 D → 周りの人のために何かしたいと思いますか。

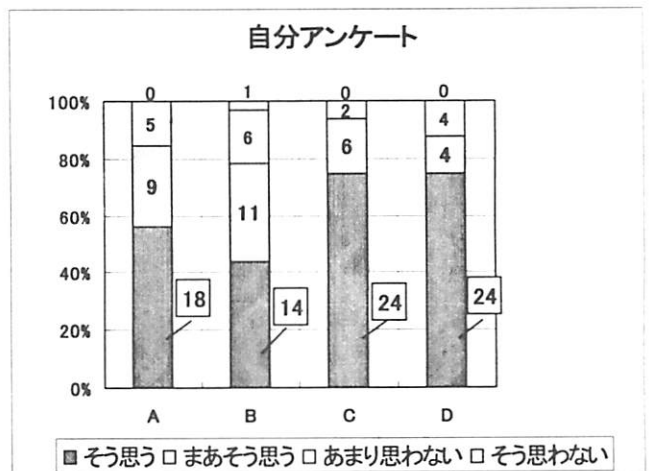


図2 自分アンケート

アンケートをみると、自分のことがすき、いいところがたくさんあると思う子は、約80%になっているが、約20%は自分のことが嫌い、いいところがないと答えている。クラスの中で気になる子が、約20%の中にいることがわかる。また、周りから必要とされていると思う子は、約90%いるが、約10%は必要とされていないと思っている。周りの人のために何かしたいと思っている子は、約85%はいるが、中には、自分のことが嫌い、いいところがないと答えている子も含まれていることが分かったことから、子ども達は、周

りの人のために何か手助けしたいと思う気持ちはあるがどのようにして役立てばよいか理解できていないようである。

それで、自己を見つめ自分の良さに気づくことで、自己の向上への意欲が高まり、それと同時に周りの人たちへの思いにも気づくのではないかと思う。また、本人は思いやりの行為だと思ってやったことが、相手からみたら、おせっかいであったり、迷惑だったりする場合もある。自らの立場から思いやりの行為をすることと、相手の立場から思いやりのある行為をすることが一致することが求められており、各学年の道徳性の発達段階に合わせて指導していくことが大切である。

(2) 道徳の時間における「思いやりの心」について

学習指導要領の内容項目として下記のように、「主として他の人とのかかわりに関すること」で、取り上げられている。

低学年・・・幼い人や高齢者など身近にいる人に温かい心で接し、親切にする。
 中学年・・・相手のことを思いやり、進んで親切にする。

(3) 役割習得能力

ハーバード大学のセルマンは、「他者を思いやり互いに尊重する気持ちやそれを表現する力」「相手の気持ちを推測し、理解する能力」のことを「役割習得能力」とし、いわゆる「思いやる気持ちや行動」の前提になると言っている。また、相手に必要な支援は何かと考える中で、自分の欲求や気持ちを調節しようとする力も働く。セルマンはこの役割習得能力を下の3つの力だと考えている。

- ① 自分と他者の違いを意識すること
- ② 他者の感情や思考など心の内側を推測すること
- ③ それに基づいて自分の役割を決定すること

また、役割習得能力の発達段階を幼児期から青年期までを5段階で表している。(表1参照) 役割習得能力(思いやりの心)は、発達するものであることが分かる。

表 1 役割習得能力の発達段階

レベル 0	自己中心的役割習得	(3歳～5歳)
・自分と他者の視点を区別することが難しい。同時に、他者の身体的特性を心理面と区別することが難しい。 (例：自分が好きなものは他者も好きだと思っている)		
レベル 1	主観的役割習得	(6歳～7歳)

高学年・・・だれに対しても思いやりの心を持ち相手の立場に立って親切にする

これは、他の人に接するときの人と関わる基本的な姿勢に関するものである。

低学年では、特に身近に関わる幼い子やお年寄りへの配慮を求めている。中学年では、広く思いやりや親切な行為が大切であることを自覚させ、高学年では、その気持ちを広げ、だれに対しても、分け隔てなく思いやり親切にする心を広げていくような指導が大切である。

(図3参照)

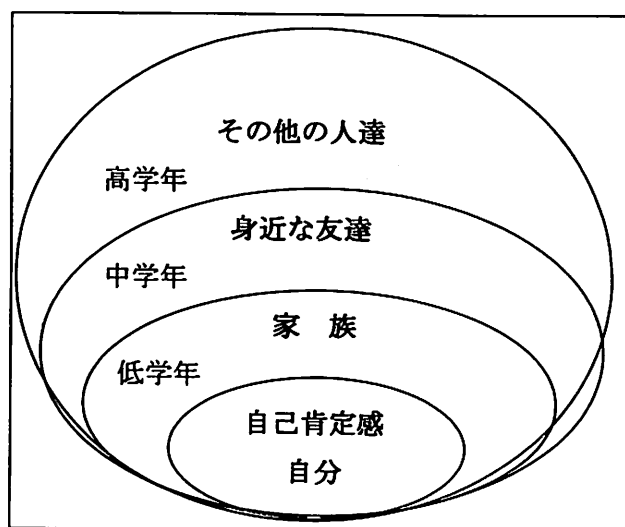


図 3 思いやりの心の広がり

<ul style="list-style-type: none"> 自分の視点と他者の視点を区別して理解するが同時に関連づけることが難しい。また、他者の意図と行動を区別して考えられるようになり、行動が故意であったかどうかを考慮するようになる。 (例：笑っているから嬉しいなど表面的な行動から感情を予測しがち) 			
レベル 2	二人称相応的役割習得	(8歳～11歳)	対象児童
<ul style="list-style-type: none"> 他者の視点から自分の思考や行動について内省できる。また、他者もそうすることができることを理解する。外から見える自分と自分だけが知る現実の自分という二つが存在することを理解する。 (例：笑っていても実は悲しいといった状況を理解するようになる) 			
レベル 3	三人称的役割習得	(12歳～14歳)	
<ul style="list-style-type: none"> 自分と他者の視点以外、第三者の視点を取ることができるようになる。したがって、自分と他者の視点や相互作用を第三者の立場から互いに調整し考慮できるようになる。 (例：いじめの話し合いでは、いじめられ側、いじめ側、両方の立場をおさえて、自分の意見を話すことができるようになる) 			
レベル 4	一般化された役割習得		
<ul style="list-style-type: none"> 多様な視点が存在する状況で自分自身の視点を理解する。人の心の無意識の世界を理解し、主観的な視点を捉えるようになる。 (例：経験していない立場でもイメージで推論できるようになる) 			

この表を見ると、レベル2の二人称相応的役割習得の発達段階が対象児童となる。また、役割習得能力を高めることは、思いやりの心へとつながっていくのである。

そこで、道徳の指導の時間でも主人公や中心人物の行為や気持ちだけを追及するのではなく、違う立場の人物を登場させ、自己の行為を外の立場から見つめる場を設定し、自分自身にフィードバックさせることが思いやりの心へとつながるのである。

2 総合単元的な道徳学習

(1) 総合単元的な道徳学習とは

道徳教育は、「道徳の時間」と各教科、特別活動等においてもそれぞれの特質に応じた適切な指導のもとで進められなければならない。しかし、現状は全教育活動でおこなわれる道徳教育が道徳の時間において補充・深化・統合が不十分なため、相互の関連性が薄く十分な道徳性を高められないでいる。

そこで、各教科や特別活動等、全教育活動を通して育まれる豊かな心や道徳性を道徳の時間において補充・深化・統合する指導をより具体的に計画的に考え、道徳的価値についての子どもの意識が継続するような構想を立てていく総合単元的な道徳学習を取り入れていきたい。

(2) 総合単元的な道徳学習のよさ

道徳教育は、よりよい生き方に向かって主体的に考え判断して行動する子どもを育てる

ことを目指している。そのためには、総合単元的な道徳学習を取り入れることが必要となる。それを取り組んでいくことで、子どもの側や教師側に次のようなよさがあると考えられる。

- ① 子どもが自ら判断し行動するようになる。
- ② 子どもが自分のよさや自分自身の課題に気づく。
- ③ 子ども自ら願いを高めていく。
- ④ 子どもの生活や教科の学習と道徳の時間がつながる。
- ⑤ 一人ひとりに応じた関わりが工夫しやすくなる。
- ⑥ 学級が集団として高まる。

(3) 総合単元的な道徳学習の構想の手順

総合単元的な道徳学習の構想の立て方についての手順をまとめると次のようになる。

- ① 学校の全体計画や学年の重点目標、子どもの実態や教師の願い、または社会的な

ニーズから総合主題を設定する。

- ② 総合主題に総合されるべき価値要素において、教科、道徳、特別活動、総合学習を選択し、教科書の学習の特性や時間的順序を考慮して配列する。
- ③ 総合単元的な道徳学習で子どもに持たせるべき課題意識を明確にし、意図的に取り上げる学習内容を選定し学習活動を検討する。
- ④ 子どもの意識を継続発展させるために日常活動との結びつきを考える。
- ⑤ 構想図の中に道徳の時間を位置づけ、子どもの意識の連続が図られるような構想図を作成する。
- ⑥ 課題に関する事前調査をするとともに、資料を選定し、指導過程を練って教材・教具を準備する。

(4) 総合単元的な道徳学習の単元構成の類型
総合単元的な道徳学習の単元構想には下記のように分けられる。

① 類型Ⅰ 同一価値総合型

道徳の時間だけによって総合単元を構成する方法で一つの価値項目を年間3～5回繰り返して指導する型である。各主題のねらいの間に発展的関係を持たせることが大切である。

② 類型Ⅱ 複数価値総合型

道徳の時間だけによって構成する類型で総合主題にせまる複数の価値項目を配置し関連づけて展開する。

③ 類型Ⅲ 教科等総合型

各教科及び特別活動の学習と道徳の時間の学習を関連づけて総合単元を構成する。

④ 類型Ⅳ 体験総合型

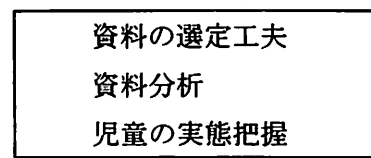
体験活動と道徳の時間の指導を直接結んで展開する。この体験総合型における道徳の時間の資料は、先行する体験活動に取材した自作資料を使うことが望ましい。

この研究では、類型Ⅱの複数価値総合型を使い、教科及び特別活動と結びつけて道徳的価値を高めていきたい。

3 道徳の時間の指導法の工夫

基本的指導過程として、ねらいを効果的に達成するためには、子どもの心情に訴え、子どもが意欲的に考え、主体的に話し合うことができるように、ねらい、子どもの実態、資料や学習指導過程などに応じて、適切な方法を選択し、創意工夫することが大切である。指導過程の場面ごとに次のようなことに留意する必要がある。

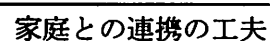
事前準備



道徳の指導過程

導入	気づく		学習への興味の喚起や動機付けの工夫
展	価値の追求	捉える	展開前段は共通の資料を使って共通の場で考える ・資料提示の工夫 ・発問の工夫 ・役割演技の工夫 ・話し合いの工夫 ・道徳ノートの工夫 ・板書の工夫
		広める	
開	価値の一般化	深める	展開後段は資料の場面から現実の自分へ目を向ける
		みつける	
終末	まとめる発展		・終末の工夫

事後



4 資料の選択・分析

(1) 資料の選択

道徳の時間に使用する教材は、子どもが道徳的価値の自覚を深めていくための手がかりとして重要である。そこで、道徳の時間における資料は、目標の達成を図り、子どもに充実感をもたらすような生き生きとした指導を進めるために、子ども心に響き、ねらいに迫るための適切な資料を選択しなければならない。

小学校の学習指導要領解説には、資料の具備すべき条件として次のような項目がある。

- ア 人間尊重の精神にかなうもの
- イ ねらいを達成するのにふさわしいもの
- ウ 児童の興味や関心、発達の段階に応じたもの
- エ 多様な価値観が引き出され深く考えることができるもの
- オ 特定の価値に偏しない中立的なもの

さらに、道徳的価値の自覚を深めることができるように、次のような要件を具備する資料を選択したい。

- ア 児童の感性に訴え、感動を覚えるような資料
- イ 人間の弱さやもろさに向き合い、生きる喜びや勇気を与えてくれる資料
- ウ 生や死の問題、先人が残した生き方の知恵など人間としてよりよく生きることの意味を深く考えさせる資料
- エ 体験活動や日常生活等をふり返り、道徳的価値の意義や大切さを考えることができる資料
- オ 悩みや葛藤等の心の揺れ、人間関係の理解等の課題について深く考えることができる資料
- カ 多様で発展的な学習活動を可能にする資料

以上の視点を踏まえて上記の絵本による「思いやり」に関わる教材を選定した。

【からすたろう】

八島太郎 文/絵 偕成社

【とべないほたる】

小沢昭巳 文 吉田むねふみ 絵 ハート出版

【ぼろ】

いそみゆき 文 長新太 絵 ポプラ社

【ともだちできたから】

白井三香子 文 むかいながまさ 絵
PHP 研究社

【わたしのいもうと】

松谷みよ子 文 味戸ケイ子 絵 偕成社

【星空のシロ】

井上夕香 文 葉祥明 絵 国土社

【ぼくがおうちでまっていたのに】

ヤーノシュ 文 石川素子 訳 徳間書店

【にじいろのさかな】

【にじいろのさかな～しましまをたすける】

【にじいろのさかなとおおくじら】

マーカス・フィスター 文/絵
谷川俊太郎 訳 講談社

【花さき山】

斉藤隆介 文 滝平二郎 絵 岩崎書店

【ぼくをだきしめて】

パティ・ストレン 文/絵 白石かずこ 訳
カワイ出版

【わすれられないおくりもの】

バーレン・スーザン 文/絵
小川仁央 訳 評論社

【友だち屋】

【あいつもともだち】

内田麟太郎 文 降矢なな 絵 偕成社

*以上の絵本は、「思いやり」に関わる資料として選定したが、授業者が絵本（資料）のどの内容に視点を置くかで道徳的価値項目が異なってくる。

(2) 資料の分析

資料分析は、資料のどの部分に焦点をあて、どういう発問をして、どのように子ども達に

ねらいとすることや価値についての把握を深めさせていけばよいかを考えるために必要である。したがって、資料の「どの内容」、指導過程の「どの段階」に位置づけて、「どんな方法」で提示していくのが大切であるので、表2のような資料分析の手順に留意する。

表 2 『資料分析の手順』

ア	資料を読み、いくつかの場面に分ける。 ・ 時間的経過、場面の变化等で3～4の場面に分ける。 ・ 大まかに場面の移り変わりが分かる程度にし、短文にまとめる。
イ	各場面ごとに登場人物の行為、心の動きを押さえる。 ・ 登場人物ごとに、その行動・気持ちを短文で抜き出し資料全体を構造的にまとめる。
ウ	主人公の行為、気持ちを支えている価値を捉え本時のねらいにかかわる中心的価値と関連価値をはっきりさせる。
エ	本時のねらいとする指導内容が含まれている部分を捉え、それをどう扱いどこまで価値追求させるかを子どもの実態にあわせて考える。
オ	中心場面に至るまでに押さえたい場面、価値の深化を図りたい場面をはっきりさせる
カ	子どもの反応を予想し、基本発問・中心発問・補助発問を考える。

しかし、この方法では、資料の場面展開や主人公の心の動きを生かした発問の構想が比較的進めやすいが、この方法だけに頼りすぎると、主人公の気持ちを抑えるだけの読解的学習になることがある。

そこで、子どもの資料の受け止めやとらえを中心にして押さえる資料分析の方法も取り入れる必要がある。

Ⅶ 授業実践

1 総合主題名

「あたたかい心が いっぱい」

2 総合単元的な道徳学習の意図

子どもは豊かな物質文化の中で、のびのびと自

由に過ごしているが、核家族や共働き家庭の増加で異年齢の友達や地域の人たちとの関わりが少なくなっている。そのために、相手を思いやる場が少なくなっている。また、子どもは相手への親切や思いやりは大切だと分かっているが、つい自己本位な態度をとってしまうことがある。学校では、休み時間の遊びや体育学習のゲームになると、勝負意識が強くなり口喧嘩をする子や自分を優先し相手の事を考えられない行動をとることが見受けられた。

そこで、相手のことを考え、相手の立場になって親切にしようとする心情や実践力を培うために道徳と各教科・特別活動等、日常活動との関連を図りながら総合主題「あたたかい心がいっぱい」を設定した。

はじめの段階では、学級活動の中で学級のめあてを話し合い、一人一人のよさを見つける活動を行った。常時活動として帰りの会に「友達の良いところみつけ」を発表し、自分自身を見つめ、他の人から認められる心地よさを味わうことで、相手への優しさが生まれてくるよう支援する。

道徳実践①で、主題名「はげましあって」2-(3)で友達と互いに理解し信頼し助けてあげられる友情の大切さを気づかせる。

道徳実践②③では、主題名「親切をひろげよう」2-(2)や主題名「進んで親切にしよう」2-(2)で、相手の立場や気持ちを考えて勇気を持って進んで親切にすることで、相手も自分も温かい気持ちになることを気づかせたい。

また、特別活動の中で友達の優しさを発表させ、日常生活の中で見つけた友達の優しさを教室掲示として紹介したい。




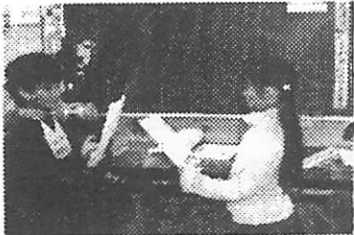
道徳実践④では、主題名「本当の友達」2-(3)で子ども達の身近な絵本を資料とし興味をもって学習を進めていきたい。本当の親切・本当の友達とは、利害を越え、人の痛みや苦しみを自分のこととして受け止めたときにこそできるものだと気づかせ、友だちや周りの人達に親切にしようとする心情を育てたい。そこで、これからの自分にふり返り、実践へと結びつくように支援してい

きたい。以上のような意図を基にして、下記の構想図を作成した。

3 総合単元的な道徳学習の構想図

段階	時期	児童の意識の流れ	教科	道徳	その他の活動
意識化	9月	・私にもいいところがあるんだな。	特別活動 「自分のすきなところを見つけよう」スキル	主題名 はげましあつて 資料名 しあいの日 2-(3) ねらい 友達と互いに理解し信頼し助け合おうとする心情を育てる。	常時活動 帰りの会 いいところ見つけ 掃除の反省 がんばった子の紹介
	10月	・友達のいいところも見つけよう。 ・みんなで仲良く遊ぼう。 ・困っている友だちには、げましの声かけや手助けをしよう。 ・私達の周りには、たくさんの人たちが、支えあっているんだな。			
追求・把握	11月	・私にもできる親切を広げていこう。 ・温かい気持ちはすてきだな。 ・だれに対しても進んでやさしくしよう。 ・温かい心を周りの人へひろげていきたいな。	特別活動 「みんなに支えられているわたし」 勤労感謝に向けて心のノート活用	主題名 親切をひろげよう 資料名 ドミノのようにねらい 2-(2) 困っている人に目を向け、親切にしようとする態度を育てる。	社会科見学 牛乳工場 スーパーマーケット見学
	12月	・友達に親切にされるとうれしいな。 ・私も友達に親切にしよう。 ・友達の気持ちや立場を分かってあげよう。 ・友達の気持ちを考えて、優しくしよう。			
実践化	1月	・私にもできる親切を広げていこう。 ・温かい気持ちはすてきだな。 ・だれに対しても進んでやさしくしよう。 ・温かい心を周りの人へひろげていきたいな。	特別活動 「学芸会にむけて」	主題名 本時 進んで親切にしよう 資料名 ハンカチのぬくもり 2-(2) ねらい 相手の立場や気持ちを考えて進んで親切にしようとする心情育てる。	
	2月	・私にもできる親切を広げていこう。 ・温かい気持ちはすてきだな。 ・だれに対しても進んでやさしくしよう。 ・温かい心を周りの人へひろげていきたいな。			

4 実践授業の記録

日・時	主題名・資料名・活動の様子	ねらい	学習内容
11/6 道徳 実践1	主題名：はげましあって 資料名：しあいの日 東京書籍 どうとく3 	・友達と互いに理解し信頼し助け合おうとする心情を育てる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 授業後半部分に隣同士で感想の聞き合いをする(ペア学習) 図4 </div>	1 休み時間の遊びについて話し合う。 2 資料を読み主人公の光一の気持ちを考える。 3 よしえの励ましで光一の気持ちの変化を話し合う。 4 生活にふり返り、ペアで話し合う。
12/3 道徳 実践2	主題名：親切をひろげよう 資料名：ドミノのように 東京書籍 どうとく3 	・困っている人に目をむけ、親切にしようとする態度を育てる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 導入でドミノたおしを体験する(導入の工夫) 図5 </div>	1 実際のドミノたおしを見て感じたことを話し合う。 2 資料を前半と後半に分けて、主人公ぼくの気持ちと席を譲ったお母さんの気持ちを考える。 3 生活にふり返り、これからの自分はどうしたいか話し合う。
本時 1/8 道徳 実践3	主題名：進んで親切にしよう 資料名：ハンカチのぬくもり 文溪堂 3年生のどうとく 	・相手の立場や気持ちを思いやり、勇気をもって進んで親切にしようとする心情を育てる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 車椅子に座り、物を拾う体験をする 図6 </div>	1 親切にされた経験を発表する。 2 視聴覚機器を使いながら資料を提示する。 3 友子の気持ちに共感させる。 4 車椅子からのハンカチを拾う体験をする。 5 生活にふり返り、生活の中から見つけた親切の写真を見る
2/6 道徳 実践4	主題名：本当の友達 資料名：ともだちや(絵本) 内田麟太郎 作 	・友だちと互いに理解し、信頼し合おうとする態度を育てる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 登場人物の気持ちになって、役割演技をする。図7 </div>	1 事前のアンケート結果を見て話し合う。(友達アンケート) 2 教師による読み聞かせを聞く。 3 オオカミの言った本当の友達について考える。 4 生活にふり返り、友達についてペアで話し合う。 5 歌「友だち」を歌う。

5 検証授業

- (1) **主題名** 「進んで親切にしよう」
中心価値 2 - (2) 思いやり・親切
関連価値 2 - (4) 尊敬・感謝
- (2) **資料名** 「ハンカチのぬくもり」
(文溪堂 3年生のどうとく)
- (3) **主題設定の理由**

① 価値観

本主題は、「相手のことを思いやり、進んで親切にする」の心情や態度を育てることをねらいとしている。親切は、相手を思いやる心から生まれてくるものであり、もし自分が同じ立場だったらと思いをめぐらし、実際の行動へと自らを動かすものである。しかし、実際に困っている人や恵まれない人を見かけても、心の強さがもてずにいろいろな理屈をつけたり、打算的に考えてしまいがちである。

この期の児童は、仲のよい友だちや知っている小さい子には親切にするが、見知らぬ人や年上の人に対しては恥ずかしさや勇気のなさが先に立ち、実践できないことが多いようである。

そこで、困っている人を見かけたら、その相手の身になって考え、親切な行為をするような児童に育てていきたいと考える。また、総合単元的な道徳学習を展開することによって児童の意識の連続を図り、ねらいとする価値を深めていきたい。

② 児童観

本学級の児童は、明るく活発である。休み時間になると、運動場でボール遊びをすることが多く、男女が混ざり合ってゲームを楽しんでいる。しかし、勝負意識が強くなると、口喧嘩や自己本位な行動が見受けられることもある。その中でも、喧嘩の仲裁をしたり、仲直りができるようにと働きかけたりする児童もいる。

この期の児童は、仲良しの友達の間では、

相手を思いやった行動や親切な行動が見られるが、他の友だちや年上の人等に対しては、思いはあるものの行動へとつながらず、見てみぬふりをすることがある。

道徳（主として他の人とのかかわりに関すること）のアンケート結果（図 8）では、礼儀・親切・友情・感謝の4つの視点において、ほとんどの児童が、道徳性が十分発達かおおむね発達しているが、まだ発達が不十分であったり、道徳的判断はできているのだが、実践的な行動は伴わない傾向がある。

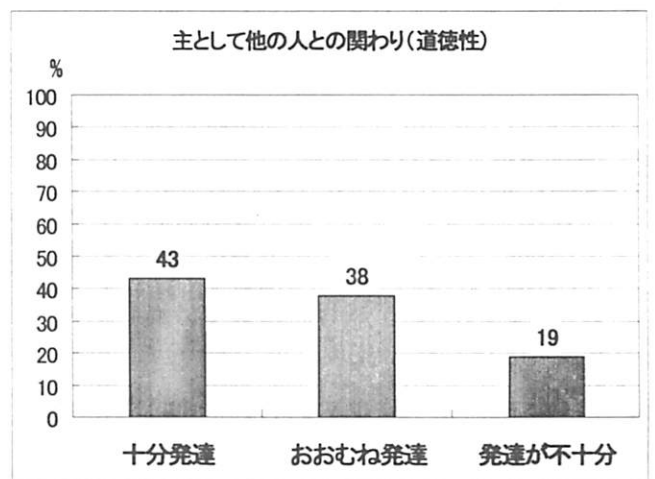


図 8 主として他の人との関わり（道徳性）

③ 資料観

本資料は、女の子が愛犬と散歩の途中に、車のタイヤが石にひっかかり困っているおじいさんに出会うが、女の子は、おじいさんが困っていることを知りながらも、手助けできずに心の葛藤を繰り返しながら通り過ぎてしまう。後日、慰問に訪れた老人医療センターでそのおじいさんに再会し、声をかけようかと迷っているうちに、自分の落としたハンカチを拾ってもらう。体が不自由でありながら脂汗を流しハンカチを拾うおじいさんの姿を見て、これまでの自分の気持ちや行動を反省するのである。女の子の心の葛藤場面は、誰でも持っている心情であり共感できる部分もある。しかし、共感だけではなくおじいさんの立場からも考えさせることにより、相手のおかれている状況にも目を向けさせていきたい。

そして、体が不自由でありながらも他人への親切な態度を忘れないおじいさんの気持ちに感動し、迷いを乗り越え思いきって行動に移すことのすばらしさを感じさせる資料であると考ええる。

④ 指導観

親切にした体験の頻度や思いやる気持ちの自己認識は、子ども一人一人違うと考えられる。本時の授業では、多様な考え方を引き出すことで、価値について十分に考え選択する場を設定し、自主的に望ましい考え方や行動を選ぶようにさせたい。そこで、おじいさんを助けようかどうか迷う友子に身をおいて考えさせることを通して、自分達の普通の思いやりや親切についての価値観を深く自覚でき

るようにしたい。そのためにも、友子の気持ちを共感できる多様な考え方を引き出し、類型した気持ちを提示して考えさせたい。

また、友子だけの気持ちを考えるのではなく、おじいさんの側からの親切を考えさせたり車いすで物を拾う困難さを体験したりすることで、本当の思いやりや親切は、相手の立場や気持ちを考え進んで親切にしようとする心情にせまりたい。

終末では、生活の中で親切にした場面・された場面を思い起こしたり、提示写真の中の友達の表情に着目し、思いやりや親切の温かさを感じとらせ、勇気をもって進んで親切にしようとする態度を育てていきたい。

6 資料分析と発問構成

話の筋	登場人物の心の動き		発問の意図	発問	関連価値
	友子	おじいさん			
・友子は犬のシロと散歩の途中に車いすに乗ったおじいさんが、車いすが動かずに困っている様子に出会う。	・シロとの散歩は楽しいな。 ・あのおじいさんは、困っているようだわ。 ・助けようか、誰かが助けるだろう、助けたいが声をかけるのが恥ずかしい。 ・おじいさんに悪いことをしてしまったかな。	・困ったな。一人では、大変だな。	○どうしたら良いか迷う場面が誰にでもあることを気づかせる。	○友子が一瞬立ち止まったのは、心の中でどんなことを考えたのでしょうか。	正義・ 勇気
・交流会で車いすのおじいさんに再会し、友子の落としたハンカチを一生懸命拾う姿を見た。	・私は散歩の時、おじいさんを助けることができなかった。 そんな自分が恥ずかしいな。	・ハンカチを落としたら女の子は困るだろう。	○おじいさんの立場から親切について考えさせる。	○おじいさんは、どうしてハンカチを拾おうとしたのですか。	反省・ 思慮
・おじいさんが、友子のハンカチを拾い、微笑みなが	・なんて優しいおじいさんなんだろう。 ・私の気持ちも優しく	・女の子が喜んでくれて嬉しいな。	○自分の行為をふり返りおじいさんの親	◎おじいさんの姿を見た時友子は、どんな気持	思いやり

らハンカチを手渡す。	なれる。		切について考 える。	ちになりました か。	
・友子は、おじい さんに手紙を書 く。	・親切を教えてもらっ た感謝の気持ちと心の 温かさを知った喜び。	・友子がこんなに 喜び感謝してくれ てうれしいな。		○基本発問 ◎中心発問	感動と 畏敬

7 本時の授業

(1) ねらい

相手の立場や気持ちを思いやり、勇気をも
って進んで親切にしようとする心情を育てる。

(2) 授業仮説

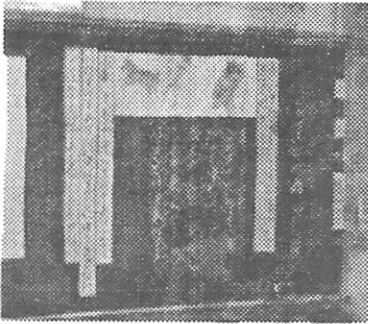

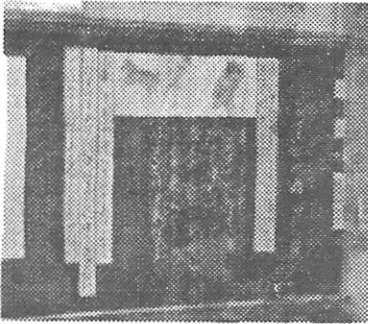
おじいさんの困っている様子に気づき、助
けてあげようかと迷う友子の気持ちを自分に
置き換えたり、体験を通して親切にされた時


(4) 展開

の気持ちを考えたりすることで、相手の立場
や気持ちを考えた親切をしようとする心情が
育つであろう。

(3) 準備

資料のさし絵（3枚） ワークシート
車椅子（浦添市保健相談センターより）
視聴覚機器 児童の写真（2枚）
資料（教師用）

	学習活動・発問 ☆	予想される児童の反応	教師の支援
導 入	1 親切にされた経験を発表す る。 ☆友だちや周りの人に親切にさ れたことはありますか。	・鉛筆をかしてもらった。 ・一人で掃除をしていたら手伝っ てくれた。	・ねらいとする価値の方向付け として簡単に行う。
展 開	2 資料「ハンカチのぬくもり」 の資料前半を読む。 3 車椅子のおじいさんに気づい た友子の気持ちについて話し 合う。 ☆友子がいっしゅん立ち止まっ たのは、心の中でどんなこと を考えたのでしょうか。 	 図9 資料を映像で見る ・おじいさんは、困っているよう だ。 ・だいじょうぶかな。 ・助けてあげようかな。 ・大人の人が助けてくれるだろう ・シロが走りたがっているからし かたがない。 ・助けたいがはずかしいな。	・資料の内容を読み取りやすい ように場面の映像を見せる。 図9参照 ・主人公の心の葛藤場面を考え させ意図的な指名をいかして 多様な考えを引き出させる。 (道徳性の発達 A, B, C のそ れぞれの児童から指名する) ・児童からでた意見を類型し提 示することで、気持ちの違い を分かりやすくする。 ・自分ならどの気持ちに近いか
	 図10 気持ちの類型		

<p>展 開</p>	<p>・友子の気持ちを類型して提示する。(図 10)</p> <p>①おじいさんの車椅子を押し て助けてあげよう。</p> <p>②助けてあげたいが、恥ずか しいし勇気がないな。</p> <p>③シロの散歩があるので、し かたがない。</p> <p>4 資料後半部分を読み、おじい さんの行動を見て友子の心の 変化を話し合う。</p> <p>☆おじいさんは、どうしてハン カチを拾おうとしたのです か。</p> <p>★おじいさんの姿を見たとき友 子はどんな気持ちになりました か。</p>  <p>図 11 車椅子での体験</p> <p>5 友子の手紙の部分を読む。</p>	<p>・友子がハンカチをなくしたら困 ると思ったから</p> <p>・大切なハンカチかもしれないと 思ったから</p> <p>・助けてあげられなかった自分が 恥ずかしい。</p> <p>・自分のことよりも私のためにや ってくれているおじいさんに感 謝の気持ち。</p> <p>・知らんぷりをしてごめんなさい これからは進んで親切にした い。</p> <p>・温かい気持ちになった。</p>	<p>を考えさせる。</p> <p>・車椅子からの体勢で、物を拾 うことの困難さを考えさせたり 体験をさせる。図 11 参照</p> <p>・おじいさんのハンカチを拾う 様子に着目させる。</p> <p>・おじいさんから手渡されたハ ンカチのぬくもりは何か考え させる。</p> <p>・これまでの友子の行動を振り 返り考えさせる</p> <p>・教師が手紙文を読み上げる。 余韻を残すようにする。</p>
<p>終 末</p>	<p>6 自分の生活をふり返る。</p> <p>☆今までの自分は、相手を思い やった親切ができていたかど うか考えてみましょう。</p> <p>・隣同士でワークシートに書い た気持ちを聞き合い交流する (図 12 参照)</p> <p>7 生活の中からの親切の場面の 写真を見る。</p>	 <p>図 12 お互いの感想を聞きあう</p> <p>・みんな笑顔でうれしそうに見え るね。</p>	<p>・自分をふり返りながら、ワー クシートに書かせる。</p> <p>・お互いの感想を聞き合うこと でお互いを認め合う。</p> <p>・気持ちの変容があった場合は 発表させる。</p> <p>・写真の人物の表情に視点を当 てる。</p>

(5) 評価

相手の立場や気持ちを思いやり、勇気をもって進んで親切にしようとする心情が育ったか。

ハンカチのぬくもり

車いすのおじいさんに気づいた友子の気持ち

だいじょうぶかな。

助けてあげたいがゆうきがないな。

絵 1

車いすをおしてあげよう。

①車いすをおして、たすけてあげよう。

②たすけてあげたいが、はずかしいなゆうきがないな

③シロのさんぽがあるので、しかたがないな

絵 2

おじいさんの気持ち

・ハンカチがないと困るだらう

・大切なハンカチだらう
手をふけなくなる

友子の気持ち

・自分のことよりも私のためにやってくれている有難い

・助けてあげられなくて悪かった

・温かい気持ち

親切

ハンカチのぬくもり

友子の家では、シロという名前の犬を飼っています。友子はシロが大好きで、毎日散歩につれて行きました。そんなある日のことです。

角を曲ると道が真っすぐつづいて、いつもシロといっしょに走ることにしています。シロは、もう走りたくてうずうずしているようで、友子をぐいぐいひっぱっていきま

す。角をまがったとき、友子は、車いすに乗ったおじいさんがいるのに気がつきま

した。ひっかかっている車がいすが動かず、こまっている様子です。友子は、いっしょに立ち止まりました。

（おじいさんを助けてあげようか。でも、声をかけるのは、はずかしいし、きつと、だれか大人が助けてくれるだろう。でも、……。）

いろいろなことが、友子の心の中を駆けめぐりました。しるは、もう、がまんができないというように友子を引っぱって、友子もそれにつられてかけ足になってきました。友子は、おじいさんのことを気にかけてながら、通り過ぎてしまいました。

友子の学校の近くには、老人いりようセンターがあり、体の不自由なお年よりが入院しています。友子の学校では、このおじいさんやおばあさんと交流会をしています。

今回の交流会では、おじいさんやおばあさんによるこんでもらえるような出し物を用意しました。歌やけきをする中、おじいさんやおばあさんは、いっしょになんか歌ってくれたり、手びょうしをしてくれました。中には、なみだを流して見ている人もいました。

出し物が終わり、一人一人のおじいさんやおばあさんと、お話をするふれ合いの時間になりました。友子は話をしようと、車いすにすわっているおじいさんやおばあさんの方に歩みよりました。

すると、この前、車いすが動かなくてこまっているおじいさんがいるではありませんか。顔が青ざめたようになり、心そうも詰まってきました。とまどいながらも、そのおじいさんと目を合わせずに、横を通り過ぎてしまいました。

そのときです。友子のポケットからハンカチがすうっと落ちました。友子は、動ようとして、そのことに気がつきませんでした。ドキドキしながら通り過ぎてしまいましたが、やっぱりおじいさんのことが気になって、後ろを振り向きま

した。そのしゅんかん、友子はガーンと頭をたたかれたようなショックを受けました。友子の目にうつったのは、不自由な体で一生けんめい友子のハンカチを拾おうとしているおじいさんのすがただったのです。おじいさんの顔には、あぶらあせがにじんんでいます。友子は、いてもたってもいられず、おじいさんの方へかけよりました。

「おじいさん、やさしくほほえみながら、」
「おじいさん、ハンカチを手わたしてくれました。どうぞ。」
「おじいさん、ありがとう。」
友子は、心からお礼を言いました。そのときのおじいさんのやさしいえがおがとてまおしく、友子の頭の中にやきつきま

した。数日後、友子は、おじいさんに手紙を書きました。
「おじいさん、お体の調子はいかがですか。この前、ハンカチを拾ってくださり、本当にありがたうございました。あのとき、おじいさんからハンカチといっしょに、温かい心も手りたされたように思いました。今までわたしは、体の不自由な人に何かお手伝いしようと思っても、どこかはずかしくてできませんでした。でも、これからは、おじいさんのように温かい心で、いろんな人と助け合っていきたいと思

橋本 隆の作品による

を実感することができた。



図13 車椅子に乗ってハンカチを拾う様子

また、授業後には次のような児童の感想があった。

表 4 児童の感想より抜粋

- ・ぼくもおじいさんみたいになったら、どんな気持ちか分かると思います。たくさんの方が困っているので助けてあげたいです。
- ・車いすに乗っていると、下に落としたものが取れないことをはじめて知りました。
- ・車いすに乗っているのにハンカチを取ってすごいと思いました。
- ・車いす生活の人が、どんなにたいへんな思いをしているかが分かりました。

(3) 考察

道徳の授業前に、児童把握のためのアンケート（道徳性の発達検査）を取ることで発問に対する多様な意見を出すことができ、意見を集約し児童に分かりやすく提示したので、展開の後半で自分をふりかえる視点となり価値が深まったと考えられる。

そして、児童の感想の中に、「今まで、見てみぬふりをしていた。」「恥ずかしくてできなかった。」等、自分をふり返りながら書かれた文から分かるように、資料の登場人物に自分を置き換え共感しながら考えることができたと同える。

さらに、車椅子の体験をしたことで、おじいさんの気持ちにより近づくことができ、体が不自由でありながらも相手の気持ちを考えた思いやりに気づくきっかけになったと考えられる。

Ⅷ 研究の考察

1 作業仮説1の検証

各教科・特別活動等の学習と道徳の時間を関連づけた総合単元を構成することで、思いやりの心が深まり実践力へと結びつくであろう。

(1) 手だて

各教科・特別活動等の学習と道徳の時間を関連づけた総合単元の全体構想をし授業実践を行った。

(2) 結果

- ① 総合単元的な道徳学習の全体構想を計画し授業実践を行うことで、思いやりや親切についての課題意識が持続し、道徳的価値の深まりが見えた。図14からは、検証前と検証後の道徳性の発達検査の中のA（十分発達）の児童が、43%から72%に増えていた。

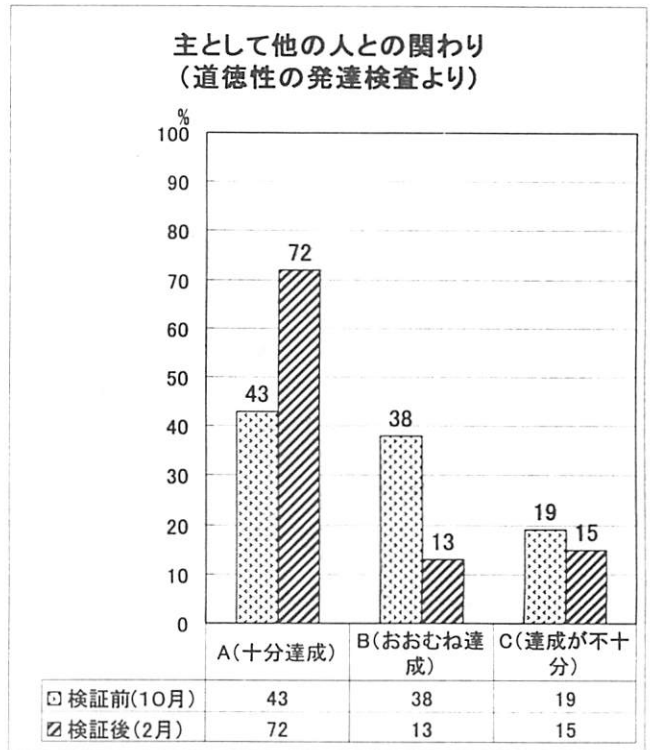


図 14 道徳性の発達検査より

- ② 道徳実践2の「ドミノのように」の授業の後半部分では、生活の中の親切を発表する言葉の中からクラスの「いいことドミノ」を作りたいという児童の願いが高まった。そこで、学級掲示をして友だちの親切や思いやりを書くカードを「いいことドミノ」として掲示し

た。(図 15 参照)

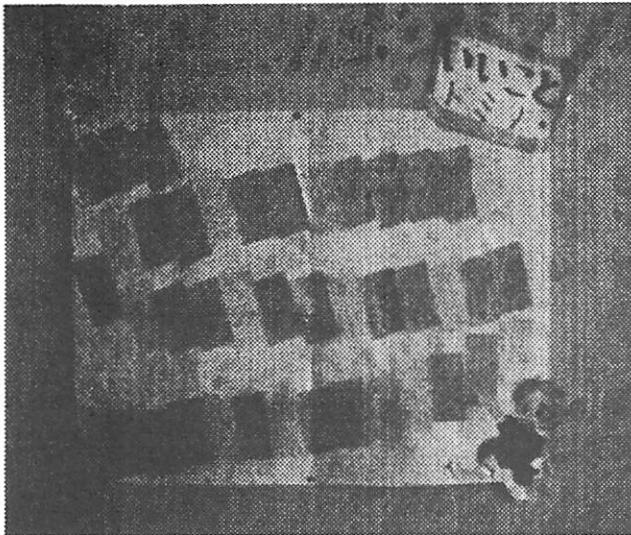


図 15 「いいことドミノ」の学級掲示

日常生活の中から見つけたことやうれしかった親切をカードに書くことで、相手への感謝の言葉ができた。また、親切をされた方もした方も心が温かくなったという言葉もあり、お互いの親切を見つけて、いっしょに書く場面も見られお互いの良さを見つけていたようだった。(16 参照)

「いいことドミノ」の掲示を始めてから周りの人達への思いやりの言葉や行動がでてきた。

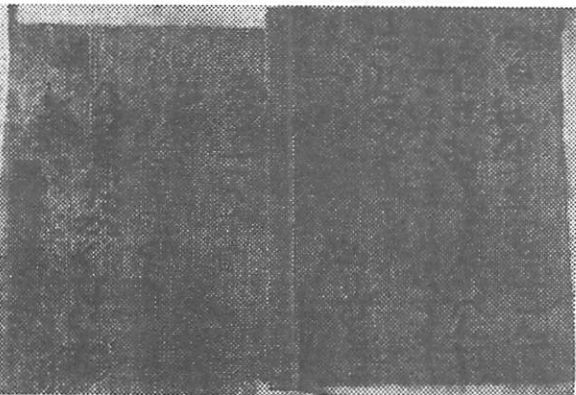
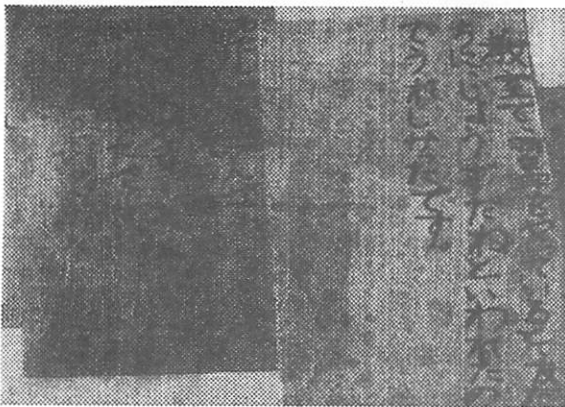


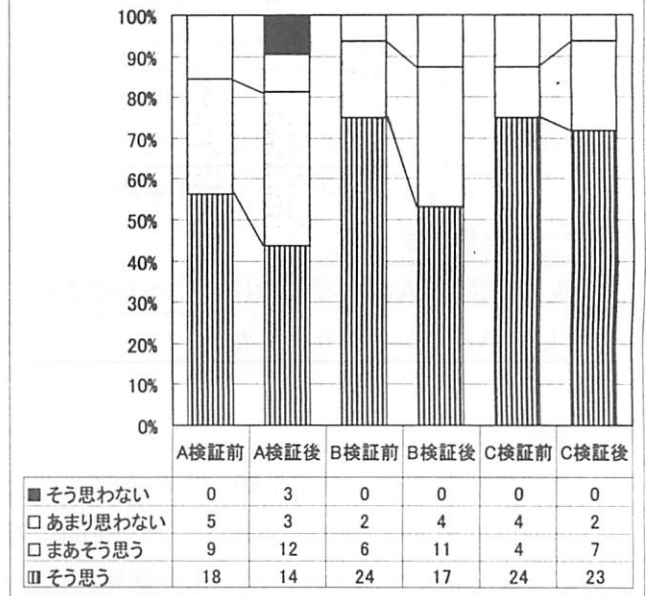
図 16 いいことドミノカードから

さらに、下記の表 5 のような児童の感想があった。「いいことドミノ」のカードに掲示されることでお互いの気持ちが高まり、自分のよさや友達によさに気づくことができた。

表 5 児童の感想より

- ・どうとくで、『いいことドミノ』のことを言ってくれたので、みんながいいことをして、「だれだれが、いいことをしました。」と発表することがふえました。
- ・『いいことドミノ』に、親切にされたこと、やさしくされたこと、うれしくなったことをもっと書きたいです。

自分についてのアンケート



- A・・・自分のことが好きですか。
- B・・・周りの人から必要とされていますか。
- C・・・周りの人へ何かしたいと思いますか。

図 17 自分についてのアンケート

- ③ 自分についてのアンケート結果から、Aの「自分のことが好きですか。」の検証前と検証後では、検証後のほうが、一人減っている。そこで、個人のアンケートを見ると検証前に、「自分のことが好きとはあまり思わない」と答えた児童の(5人)は、「自分のことが好き」と思うに変わっていたが、検証前は「自分を好きと思う」の児童が、検証後には、「自分のことが好きではない」(3人)にかわっていた。

次に、アンケート B の結果から「周りの人から必要とされていますか。」でも検証前と検証後では、検証後の方が減っている。

アンケート結果 C の「周りの人に何かしたいと思いますか。」では、検証後の方が増えていることが分かる。C の検証前の誰にしたいですかは、友だちや家族が多かったが、検証後では、困っている人、みんな、体の不自由な人と変化が見られた。

(3) 考察

各教科・特別活動等と結びつけた総合単元的な道徳学習の構想図を作成し、授業を実践したことは、道徳性の発達検査グラフ(図 14)からも分かるように、児童の道徳的価値の高まりが見られたと考える。

そして、道徳実践 2 では、授業後に子ども達の声から出た「いいことドミノ」の活動が始まり、「いいことドミノ」カードや児童の感想からも分かるように、主体的な活動が広がったと思われる。

自分についてのアンケート(図 17) 結果からは、「自分のことが好きですか」について、好きだと答えた児童の変化はあまり見られなかった。検証後のアンケート A の中で、「自分のことが好きではない」と答えている児童(3人)は、「自分のいいところはどんなところですか」の問いには、『英語が上手だ。』『よく笑っている。』『計算がはやい。』と答え自分のよさを知っているようだった。

このような児童は、自分をより高い課題へと気づき行動しようとしているのではないかと考えられる。また、C の結果の中で、「周りの人への親切は誰にしたいですか」の回答が、検証前にくらべて検証後では、身近な人達から困っている人・みんな・体の不自由な人達へと対象が大きく広がっていることは、道徳の課題意識が高まったと言える。このように総合単元的な道徳学習は、道徳的实践力を育てるために有効であると考えられる。

2 作業仮説 2 の検証

子どもの実態に即した資料の選択や資料分析・授業展開の工夫をすることで、価値の内面化が図られ、より道徳的实践力が育つであろう。

(1) 手だて

- ① 児童の興味・関心に基づき、心に響き、ねらいに迫る資料を選択した。
- ② 道徳の授業の資料を分析し授業実践した。
- ③ 指導過程の導入・展開・終末の場に応じて、適切な方法を選択工夫し授業実践した。

(2) 結果

① 道徳実践①より

資料の選択は、総合単元の構想図の流れに沿って、主題名に関係する資料を選択し実践したので、道徳実践①の資料は、ドッジボールの試合を題材とした資料を活用した。児童の感想から(表 6)でも分かるように、登場人物の気持ちが自分の事として捉える事ができた。

表 6 子どもの感想より

・わたしは、さいしょドッジボールがにがてでした。こういちくんが、ドッジボールをやらないのは、ボールがこわいからだと思います。
わたしもこんな思いをしたことがありました。
・ぼくは、休み時間にこんなことがあったら友だちをはげましてみたいです。

② 道徳実践②より

主題名「親切をひろげよう」の導入の部分で、ドミノたおし(図 5・図 18)を実際にやったり見たりする事で、学習への興味の喚起を図った。

この導入は、ドミノのように親切をどんどん続けていくという意図があったので、終末での児童の気づきの中に、「初めにやったドミノと同じように、親切は続いていくんだな。」と言う声があがり、その後、主体的な活動へと繋がった。

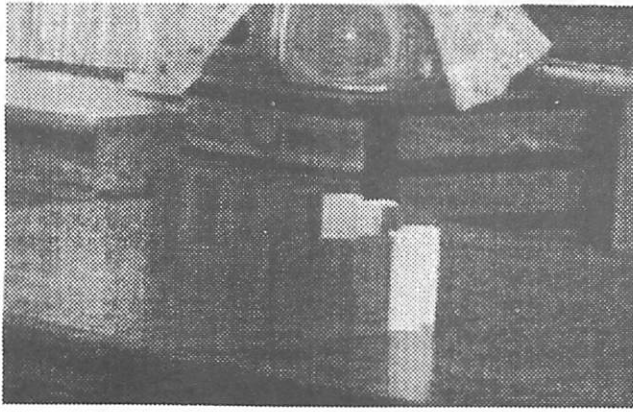


図 18 実際のドミノを授業に活用

③ 道徳実践③より

展開の中心発問の場面で、登場人物に共感させるために、車いすの体験をして気持ちを考えさせたために登場人物に、より共感できたようだった。また、終末部分では、児童の活動の場面を道徳的価値と結びつけ写真にして見せたことで、自分の身近な生活の中での思いやりや親切の発見となり道徳的価値が深まった。

また、図 19 と 20 の写真は、授業の終末部分で身近な生活の中から見つけた「思いやり」を写真に撮り提示したものである。



図 19 終末の提示写真

友だちの感想を聞いて、拍手をしている場面



図 20 終末の写真

目の不自由な人の体験で優しく支えてあげる場面

④ 道徳実践④より

主題名「本当の友だち」では、展開の中心部分に役割演技を取り入れて、登場人物（オオカミとキツネ）の気持ちになって本当の友達について発表した。隣同士でオオカミとキツネになって役割演技（図 21 参照）もしたが、みんなの前でもやりたかったと言う声もでて楽しんで授業ができた。また、終末部分では、本当の友達について考えた後に、3年生の音楽の「友だち」を全員で歌うことで価値の内面化が図られ授業が深まった。

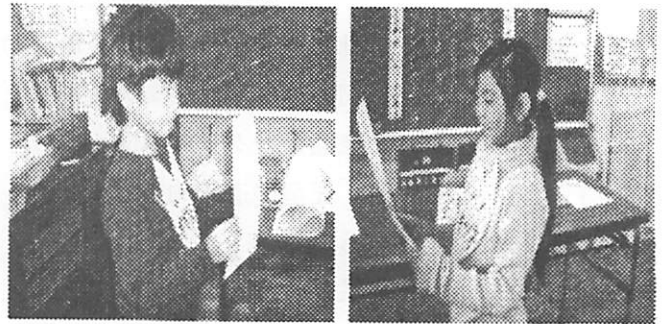


図 21 役割演技

⑤ ペア学習の導入

道徳学習の全授業の中に隣同士やグループでのペア学習を取り入れることで、友達の感想の良いところや自分との違いを見つけながら聞き合うことができ、ペア学習を他の教科へと結びつけることもできた。（図 19・図 22）

さらに、道徳の授業で感じたことや気づいたことを家庭へも共有できるように道徳だよりを発行した。それが、家庭での話題になり児童の道徳的実践力へとつながることを期待した。

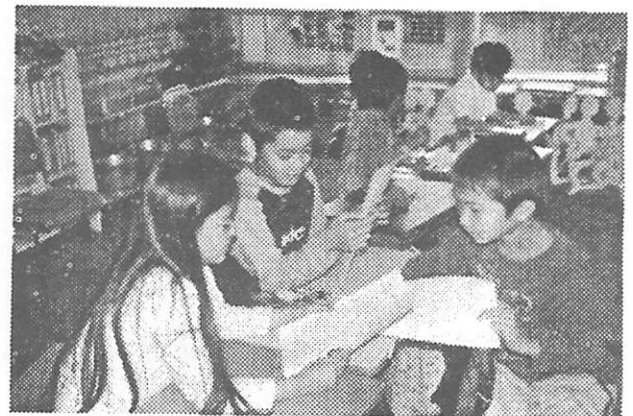


図 22 ペア学習

- ⑥ 総合単元的な道徳学習を継続して
総合単元的な道徳学習を継続していく中で、
児童の道徳に対する考え方も変化していること
下記のグラフから分かる。

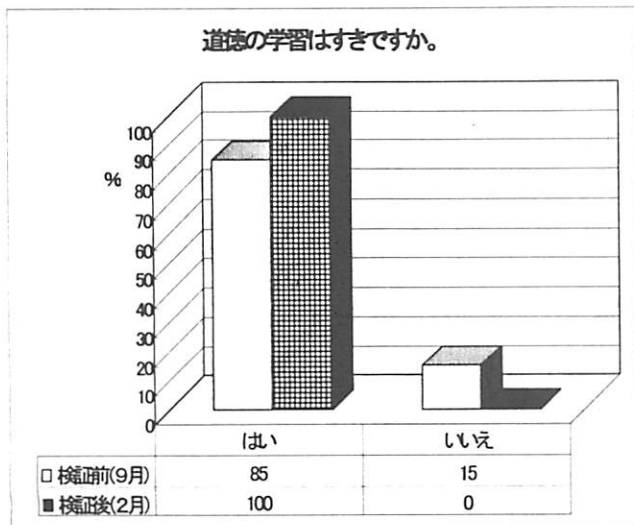


図 2 3 道徳はすきですか。

検証前と検証後の「道徳学習はすきですか」のアンケートに、検証後には全員がすきだと答えた。また、検証前に道徳はきらいだと答えた児童の検証後の感想(表7)には、道徳で感じたことや今後の豊富が書かれていた。

表 7 検証後児童の感想より

道徳はさいしょはわからなかったけどやってみるとやさしいことをまなで人に思いやりをもたらすこともバチも広くなることわかってどうとくもやることがあったと思います。やってみるとは人に思いやるにはほんの少しをすればいいですが。

目の前の人はたいていなんなんだな。ぼくはいろいろな人がたいていそうだったときは自分できつだてあげたい。いろいろな人はきつだててくれたらありがとうという気持ちになるんだな。

(3) 考察

児童の実態に即した資料を選択することは児童の感想からも分かるように、登場人物の気持ちや感じ方を自分のこととして考え深めることができたと考えられる。それには、教師が児童

の様子や実態把握を日常から行う必要性があると感じられた。

そして、授業展開の工夫をすることは、児童の興味関心を高めるとともに道徳的実践力にも結びつき児童の心に響くように思われた。

また、授業後の児童の感想からも分かるように、確実に変化し周りの人達へ目を向け実践しようとする児童の姿に道徳学習の必要性を強く感じた。

以上のことから、児童の興味関心または発達段階に合わせた資料や授業展開の工夫をすることは、道徳的価値の内面化が図られ道徳的実践力が育つために有効であったと考えられる。

IX 研究の成果と課題

1 研究の成果

- (1) 総合単元的な道徳学習の総合主題「あたにかい心がいっぱい」を進めることで、児童がこれまで以上に、優しさや思いやりに関心を持ち行動しようとする姿が見られた。
- (2) 指導過程を工夫することによって、児童が興味・関心を持ちながら生き生きと学習に取り組むことができた。
- (3) 道徳の時間を要として、各教科・特別活動等と関連させることで、児童の課題意識が持続し、ねらいとする価値に多面的に関わることができた。
- (4) 道徳学習を通して、教師が一人一人に応じた関わりが工夫しやすく児童理解へと役立った。

2 研究の課題

- (1) 児童の興味・関心をもてるような資料の開発や児童の心に響き価値に迫るような適切な資料の選択。
- (2) 年間を通しての効果的な総合単元的な道徳学習の組み方の工夫。
- (3) 資料分析の仕方や児童への適切な発問の工夫。

【終わりに】

本研究は、総合単元的な道徳学習を取り入れて、思いやりの心と道徳的実践力を育てることを目指して、半年間、研究に取り組んできました。

十年以上教職に携わってきましたが、道徳の授業を実践するたびに、子ども達の心に響かず実践に結びつかないために、反省の日々を送っていました。

しかし、研究を始めてから、私自身の子ども達を見る目が変わり、子ども達の姿が少しずつ変容するのが見えることで、いっそう道徳学習の素晴らしさが実感できました。「思いやり」をテーマとし研究を進めてきましたが、相手への純粋な好意の表出が、人と人との関わりを温かいものにするを子ども

達や周りで支えて下さった方々に教わったように思われます。

研究期間中、忙しい中いつも親身になって御指導して下さいました本研究所の宮城むつみ所長、石川博基係長、比嘉清喜指導主事、そして心身共にお世話になった職員の皆様方へ心より感謝申し上げます。

また、研究の機会を与えて下さり、授業の際は、参観し、励まして下さった浦添小学校の川上喜真校長をはじめ、職員の皆様方に感謝申し上げます。

最後に、半年間、支え合い励まし合い共に学んできた37期研究委員の先生方大変お世話になりました。有難うございました。

《主な参考文献・引用文献》

- | | | |
|--------------------------------------|-----------|-------|
| ・小学校学習指導要領解説 道徳編 | 文部科学省 | 2008年 |
| ・学習指導要領の解説と展開 道徳編 | 押谷由夫・小寺正一 | 2008年 |
| ・子どもとつくる総合単元的な道徳学習 | 押谷由夫 | 1997年 |
| ・総合単元的道徳学習の実践 | 笹田博之 | 1997年 |
| ・小学校道徳 内容項目の研究と実践
思いやりの心を育てる | 押谷由夫・立石喜男 | 1991年 |
| ・失敗の事例に学ぶ道徳の授業3・4年 | 新宮弘識・上杉賢士 | 1991年 |
| ・さあ道徳の授業をはじめよう！
～道徳授業の基本と心にひびく工夫～ | 長崎県教育センター | 2003年 |
| ・VLFによるおもいやり育成プログラム | 渡辺弥生 | 2001年 |